

アトム

©TEZUKA PRODUCTIONS

原案／手塚治虫

脚本・演出／横内謙介

作曲／甲斐正人

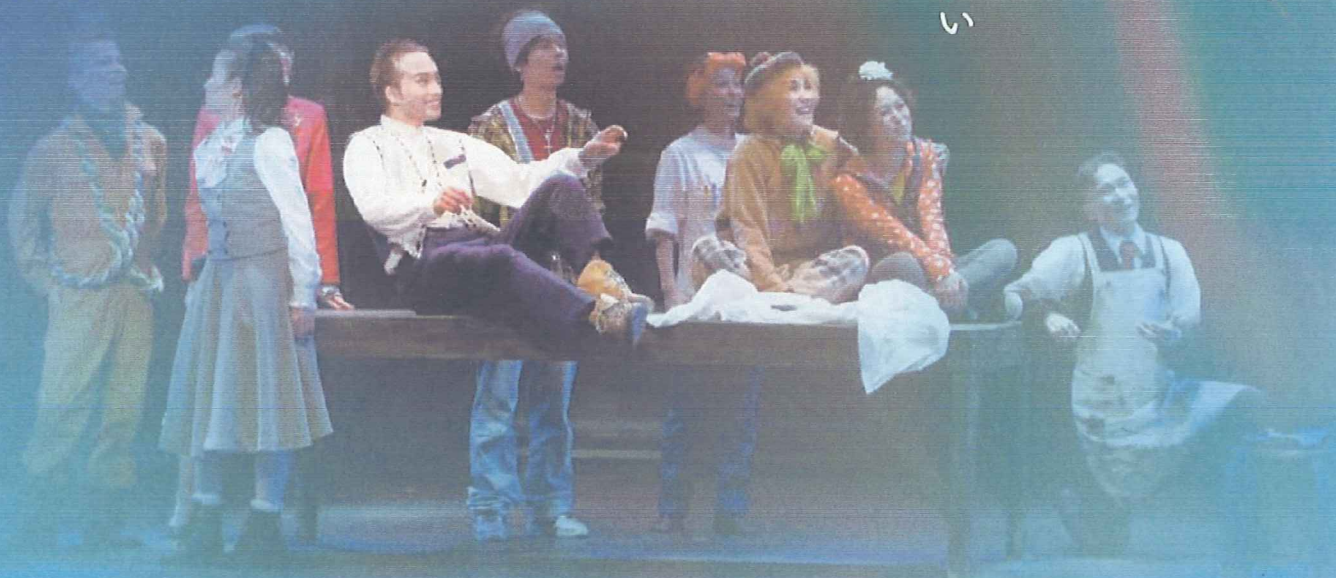
振付／ラッキィ池田・彩木エリ

監修／手塚眞

協賛／手塚プロダクション
角川エンタテインメント

わらび座 WARABIZA

僕たちは愛から生まれたと、信じたい



あのミュージカル「火の鳥 鳳凰編」に続き わらび座×手塚治虫作品第2弾!!

大阪福祉事業財団後援会10周年記念

豊里学園・三島の郷 建て替え支援

2011年 **12月3日**(土)午後2時半開場／3時開演

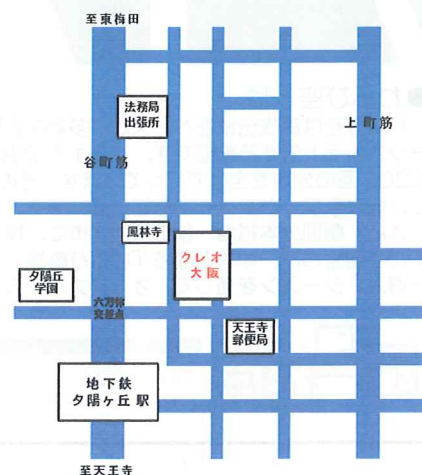
(最初約30分の後援会行事があります)

クレオ大阪中央全席自由席／4,000円(中学生以下3,500円)

(地下鉄谷町線「四天王寺前夕陽ヶ丘」1、2番出口から徒歩約3分)

主催：大阪福祉事業財団後援会

大阪市城東区古市1-21-41 TEL 06-6931-2983



あらすじ

20XX年、十万馬力のロボット「アトム」の時代は終わり、さらに進化したヒト型ロボットが、パワーを大きく制限され、人間への絶対服従を強いられている時代。

路地裏の倉庫では、ロボットだけの秘密のパーティーが開かれていた。

元科学者・神楽坂町子の屋敷で働くトキオと、親友のアズリが創った歌は、自由を持たないロボットたちに生きる喜びを生んでいた。

そこに人間の若者たちが紛れ込んでくる。

工場で働くタケとエミ、親に未来を決め付けられて苦しむマリア。

「私たちだってロボット!」

人間とロボットの叫びは心を結びつける。

やがてマリアとアズリに愛が芽生える。

しかし、それを許さない人間の力と暴力によって、アズリは殺される。

復讐を叫ぶロボット達に、元科学者のスーが「殺人兵器として十万馬力のアトムを甦らせるのだよ」と煽る。

アトムを密かに預かっていた神楽坂町子は、「暴力で何かを解決した事があったか」と、トキオを諭す。そして、トキオに隠された秘密が明かされる。

アトムは甦るのか、トキオの決断は一。

★アトムについて

すでにアトムの誕生日（2003年4月7日）も通り越した今、『鉄腕アトム』を、未来を描くSFファンタジーではなく、人々の記憶に深く刻まれた神話のように描いてみたいと考えています。

テーマは、人間ならざる者から人間たちに宛てて捧げられる、切なく哀しい「I LOVE YOU!」のメッセージです。

手塚治虫がアトムを描いた時、すでに人間は危うい存在でした。地球を破壊し、互いに殺し合う、醜い存在。

そんな人間たちに救いの手を差し伸べるべく現れたのが、十万馬力の心優しい科学の子・アトムでした。

もはや神からも見捨てられた人間たちをもう一度信じ「君たちは素晴らしい」、「人間が大好きだ」と言ってくれる、小さな友人。そしてその言葉通り、愚かな人間たちのために、命さえ投げ出してくれる最後の天使。

人間への愛のために、我が身を危険に晒して人間の悪と闘う、機械＝アトムの自己犠牲の姿は、まさに神話的英雄の行為であると思うのです。

時代の状況は、手塚治虫がアトムを生んだ時よりも悪くなっています。ますます人間の危機は迫っている。

こんな時だからこそ、孤独な人間たちに対して誰かが、「I LOVE YOU!」と叫んでくれる物語が必要だろう、と考えます。たとえ今、我々人類が、比類稀なるアトムの美しい魂から愛される価値のないものとしても。そんな人間たちが、せめて自分たちの寂しさに気付くために。

脚本・演出 横内謙介

©TEZUKA PRODUCTIONS

写真協力:フォトスタジオアーク

スタッフ

原案 手塚治虫
脚本・演出 横内謙介
作曲 甲斐正人
振付 ラッキイ池田・彩木エリ
美術 金井勇一郎
照明 塚本悟
音響 小寺仁
衣裳 樋口藍
音楽指導 山口正義
ヘアメイク 我妻淳子
小道具 岩辺健二・平野忍
監修 手塚眞
協賛 手塚プロダクション・角川エンタテインメント

●わらび座とは

わらび座は民族伝統をベースに、多彩な表現で現代の心を描き、日本のオリジナルミュージカルを上演する劇団です。1951年2月創立。現在、7つの公演・グループで年間約1,200回の公演を全国で行っています。その他にも、民族舞踊・太鼓・演劇・健康体操など、様々なワークショップも行っています。

また、劇団の本拠地・秋田県仙北市に、複合文化エリア「たざわこ芸術村」を展開。ホテルや温泉の他、中核となる「わらび劇場」では、09年度よりレパートリー・システムを導入。シーズンを通して、オリジナル・ミュージカルを複数上演します。

◆劇団わらび座・主な受賞歴

2005年 月刊ミュージカル「年間ベストテン2004」でミュージカル「アテルイ」ベスト10位
2008年 ミュージカル「火の鳥 鳳凰編」が文化庁芸術祭参加作品となる
2009年 月刊ミュージカル「年間ベストテン2008」でミュージカル「火の鳥 鳳凰編」ベスト15位